

## 役者絵

本展は、9月11日（火）に鳥根県民会館で歌舞伎が上演されることにな  
なみ、松江歴史館収蔵（寄託品含む）の役者絵を展示するものです。  
ここでは、前期（8/17～9/19）の展示作品を紹介します。



初代歌川豊国画 3代坂東彦三郎の菅丞相かんしょうじょう

文化8年（1811）7月15日上演の歌舞伎「菅原伝授手すかやらでんじゆて  
習鑑ならいかみ」に取材。平安時代の政治家・菅原道真が藤原氏の  
陰謀により左遷された事件を基にした演目です。この画は  
菅原道真をモデルにした人物・菅丞相の左遷後を描いた  
「筑紫配所の段」の場面を描いたものと考えられます。  
牛の背に乗り書物を読む菅丞相は、きびしい表情をして  
います。

作者の初代歌川豊国（1769-1825）は、歌川派を浮世絵  
界における圧倒的な勢力として築き上げた人物です。



初代歌川国貞画 関三十郎の梅王丸、尾上  
菊五郎の桜丸

「菅原伝授手習鑑」の登場人物で、三つ子の  
長男・梅王丸と三男・桜丸を描いた作品です。  
梅王丸と桜丸、そして次男・松王丸はそれぞれ  
別の主のもとに舎人として仕えていました。  
梅王丸の主は菅丞相、そして松王丸の主が菅  
丞相を陥れた藤原時平しへいでした。



初代歌川豊国画 瀬川路考の千代、澤村  
田之助の八重

「菅原伝授手習鑑」の登場人物で、松王丸  
の妻・千代と、桜丸の妻・八重を描いた  
作品です。衣装にはそれぞれ松と桜があし  
らわれています。作者の豊国は役者の全身  
図を得意とし、寛政期には「似顔画師豊国」  
として認められていました。



初代歌川国貞画 2代岩井籙三郎のおかる、3代坂東三津五郎の大星由良之助  
7代片岡仁左衛門の斧九太夫、7代市川團十郎の寺岡平右衛門

文政10年（1827）7月26日の上演の歌舞伎「仮名手本忠臣蔵かなてほんちゆうしんぐら」に取材。元禄時代に  
起こった赤穂浪士による仇討を劇化した演目で、「菅原伝授手習鑑」よしつねせんぼんざくら  
と同じく並木千柳なみきせんりゆうらの作者たちによって書かれました。描かれているのは七段目「祇園  
一力茶屋の段」で、物語の中でも重要な場面のひとつです。

この画の作者の歌川国貞は、初代豊国の築いた歌川派を引継ぎ、幕末の浮世絵界の  
中心となりました。それまでの美人画には格調高く妖艶な趣がありましたがこの時期  
（文化文政期）の国貞の美人画は粋で、庶民感覚にあふれたものでした。



初代歌川国貞画 3代中村歌右衛門の  
酒屋娘おみわ、3代尾上梅幸のもとめ

文化12年（1815）9月9日上演の  
「妹背山婦女庭訓いもせやまおんなていきん」に取材。藤原鎌足と  
淡海の親子による謀反人・蘇我入鹿  
討伐を描いた演目で、描かれた場面は  
酒屋の娘・お三輪が一目惚れした求女もとめ

（実は藤原淡海）を追う四段目「杉酒屋の段」です。二人が手にしているのは糸繰りの  
道具である芋環おだまきで、糸の先を恋しい人に付け糸を頼りに追いかけていきます。

## 松江と歌舞伎



天満宮近くにあった永徳座

### 劇場のにぎわい

かつて松江にはいくつかの芝居小屋・劇場があり、賑わいを見せていました。明治初期には北堀町に朝日座、伊勢宮に千鳥座等があったといえます。明治20年代に県の条例により芝居興行は白潟天満宮周辺に移ります。

売布神社の付近にあった永楽座は、天満宮近くに移転し永徳座と名を変え、明治27年正月にこけら落とし上演として東京歌舞伎が来演しました。市村羽左衛門ら花形役者が来松したといえます。その後も永徳座は、人参方にあった改良座とともに名称を変更しながら、また映画も上映しながら昭和半ばまで興行を続けました。

### 島根県民会館の誕生

昭和43年(1968)9月25日には、松江市公会堂跡に島根県民会館が開館しました。本年は開館50周年の年にあたります。当時、西日本一を誇ったこの施設のこけら落としには13世片岡仁左衛門一行による歌舞伎が華々しく上演されました。ことぶきしきさんぽそう つばさかすいしげんき かんじんちよう「寿式三番叟」や「壺坂霊験記」「勸進帳」の演目が熱演され訪れた人々を魅了したといえます。

またこけら落とし公演前日には、公演のために島根を訪れていた仁左衛門一行によって、大社町(現出雲市)出身で歌舞伎の始祖といわれる出雲阿国の塔の除幕が行われました。



現在の阿国の塔

### 仁左衛門のみた松江

13世片岡仁左衛門は、手記『らくがき仁左衛門楽我記』(昭和57年、三月書房)の中で松江についてこう語っています。「松江にはいろいろの伝説や古跡もたくさんありますが、私はあの大橋の畔から七色に色が変わるとい入日を拝んだ時、ほんとうに素晴らしいと思いました。宍道湖は静かに黄金色に光っていましたが、やがて薄紅になり、そして刻々と夕闇につつまれて行く、あの湖の眺めは忘れることができません。」

# 平成30年度 松江歴史館ミニ展示 役者絵 前期

前期: 8月17日(金)

~ 9月19日(水)

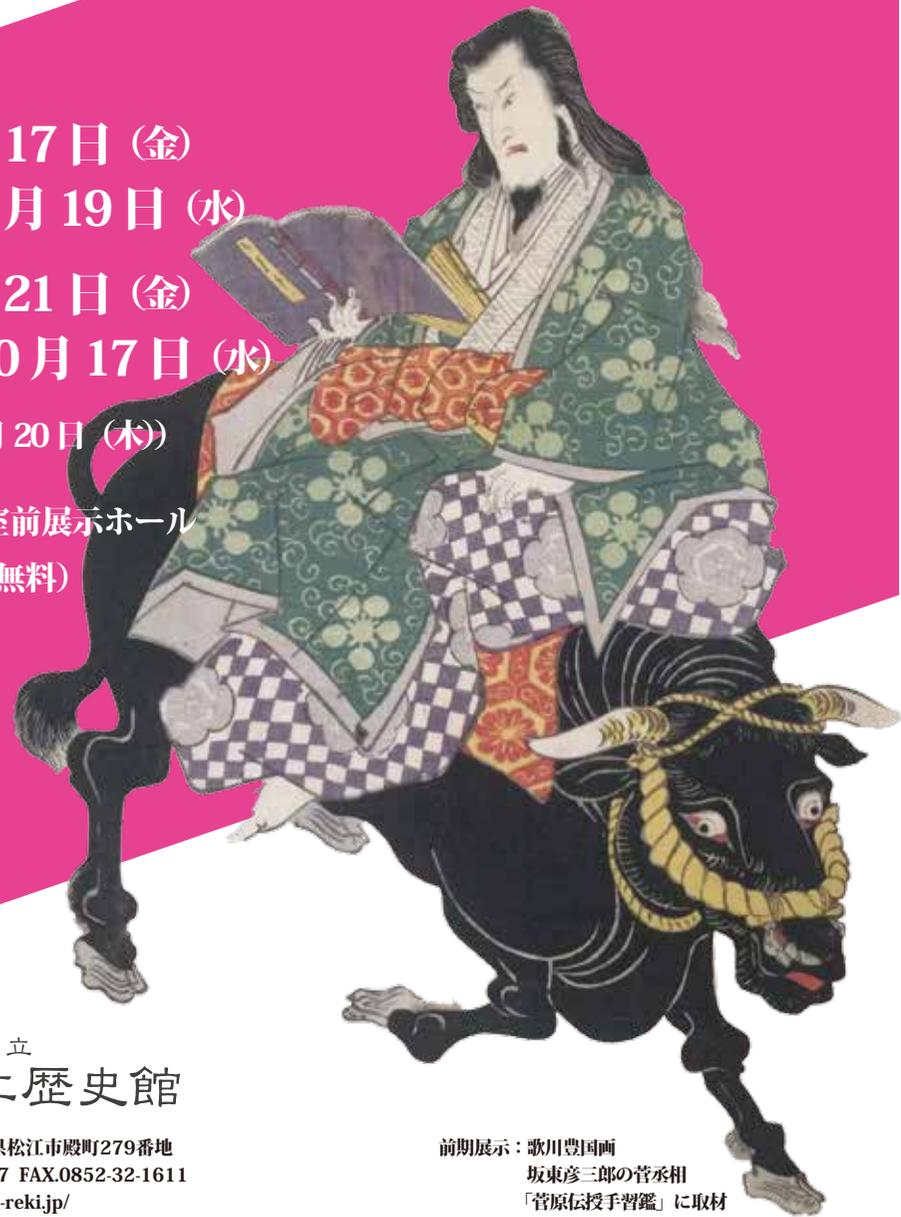
後期: 9月21日(金)

~ 10月17日(水)

(休館日: 9月20日(木))

会場: 展示室前展示ホール

(観覧無料)



松江歴史館

〒690-0887 島根県松江市殿町279番地  
TEL.0852-32-1607 FAX.0852-32-1611  
<http://www.matsu-reki.jp/>

前期展示: 歌川豊国画  
坂東彦三郎の管丞相  
「菅原伝授手習鑑」に取材